事業を進めやすくする
計画書・報告書のつくり方

平成25年８月８日

株式会社　農楽　西村俊昭

内　容

- 事業とは
- 第1回目の打合せが重要
- 業務実施計画書をつくろう
- 予算書を作成しよう
- 重要段階で打合せをしょう
- 打合せ・協議簿を作成しよう
- 報告書を書こう
- 時間を管理しよう
- 概要版を作成しよう
- 次年度の提案書を作成しよう
- 業務遂行に必要な能力

自己紹介

•昭和40年　大阪市生まれ
•平成元年　愛媛大学農学部農業工学科卒業
　建設コンサルタント入社
・平成19年　農楽設立
・平成20年　農村移住
　農楽法人化

•得意分野
　地域計画
　自然エネルギー計画、
　農業農村整備事業計画
・人生の目標
　環境・福祉・経済が調和した持続可能な農村の構築
　農による障がい者雇用の創出
　技術力・マネージメント力・人間力を極める

持続可能な農村の構築とは？

昔の農村

•農業を基盤に地域資源を活かした多様な生業があった

•木や水力、動物によりエネルギーを得ていた

•自然環境と調和した暮らし

•多様な世代で構成されていた

↓

•持続可能な地域
（経済・環境・福祉）

現在の農村

•産業と都市の発展

•人口の流出、高齢化

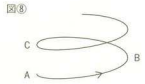
•農地、山の荒廃

•存続が危ぶまれている

など

農村再生

•最新技術とつながりにより螺旋的発展



•つながりによる新たな生業（なりわい）の創出

•移住者、訪問者の増やすしくみ

•流域で農村を支えるしくみ

•食・エネルギー・福祉で自立できるしくみ

プロジェクトの紹介

・東近江市ハンドシェーク協議会（H20～H24）
学（体験活動）×食（農家レストラン）×泊（農家民泊）
・市民共同発電所　（H20～）
市民出資×太陽光発電×地域商品券
・バイオマス利活用推進会議（H20～）
バイオマス活用アドバイザー×一般廃棄物事業者
・淀川流域ノラおこしプロジェクト（H21～）
中山間集落×流域の都市住民
・薪プロジェクト（H22～）
薪×里山保全活動×獣害対策×障害者雇用
・のんべえ倶楽部（H22～）
酒米生産×地元酒蔵×体験活動×関連商品の開発
・フードシステム協議会（H23～）
ほ場整備農地×業務用加工野菜×市・JA・ヤンマー
・えんプロジェクト（H24）
着地型観光×地元旅行業者×地域の匠、食、歴史　など

業務とは

目的

↓

仕様書・予算

↓

予算内で調査・計画・試行を実施

↓

報告書

↓

提案書

仕様書

平成２１年度「東近江市緑の分権改革推進事業」業務委託　仕様書

1．業務名　　平成２１年度「東近江市緑の分権改革推進事業」業務委託

2．目　的　　地域の特質を活かし、地域資源を最大限活用する仕組みの構築を目指すため、クリーンエネルギー設置の調査および利活用可能性等の調査と具体的な事業展開のための先行実践調査を実施する。

3．委託期間　　契約の日から平成２３年２月２８日

4．業務内容　　業務内容は次のとおりとする。なお、業務を実施するに当たり、専門家と市民で参加する会議（３回程度）や関係する官公庁などと連携し、かつ、調整しつつ進めるものとする。
また、業務内容の詳細について別添を参照し、発注者との充分な連携、調整を行うものとする。
（１）スマートメーター設置による太陽光発電量の高精度なモニタリング調査
（２）休耕田等でのバイオ燃料用米による資源生産可能性調査
（３）小水力発電に適する現地・具体的地点の調査
（４）太陽光発電の全量買取制度の先行実証
（５）持続可能なバイオマス資源供給源としての雑木林等の管理のシミュレーション
（６）薪、BDF等供給体制の試行整備
（７）その他緑の分権改革につながる地域資源の発掘や人材の育成に関すること

5．成果品及び成果品の納入
成果品については、印刷物としての製作書及び成整製各５部及びマイクロソフトオフィスで作成した電子データ３部を市に提出する。
印刷物に使用する用紙や電子媒体の種類及び記録方法等については別途甲の指示に従うものとする。

6．成果品に対する責任の範囲
受託事業者は、本業務完了といえども、不備が発見された場合は、速やかに成果品の訂正をしなければならない。成果品の訂正の請求は実績報告書の提出日の翌日から１年以内に行うものとする。
また、これに要する費用は、受託事業者が負担する。

別添詳細内容

（１）スマートメーター設置による太陽光発電量の高精度なモニタリング調査
・調査対象者をおおむね 100 件程度とし、市内各地でバランス良く選定すること
・協力者に対して調査内容の詳細な説明を行うこと
・スマートメーター設置事業者に対して１回以上説明会を開催すること
・太陽光発電量について１日単位のデータを４カ月以上収集すること
・専門家を招聘し、日別時間帯毎設置角度と発電量の関係を整理して調査の取りまとめを行うこと

（２）休耕田等でのバイオ燃料用米による資源生産可能性調査
・市内の休耕田の現状と過去からの経緯を把握すること
・専門家に協力を依頼し、市内のバイオ燃料用米の生産可能性を調査すること

（３）小水力発電に適する現地・具体的地点の調査
・現地調査の前に、地元関係者へ説明を行うこと
・市内の水路等地域において、小水力発電に適する具体的な地点を調査すること

（４）太陽光発電の全量買取制度の先行実証
・（１）で選定した対象者に対して、全量買取制度を想定した地域商品券による地域循環の実証調査を行うこと
・市内の四つ区体に対して１回以上説明会を開催すること
・地域商品券の印刷、発行、換金に関する事務を行うこと
・調査対象者へのアンケート調査と集計・分析を行うこと
・市民共同発電所を設置する可能性のある組織（自治会、NPO、まちづくり協議会、ＰＴＡ等）への説明を行うとともに、アンケート調査や集計・分析を行うこと
・専門家を招聘し、実証調査とアンケート結果をもとに課題や提案等の洗い出しを行うこと

（５）持続可能なバイオマス資源供給源としての雑木林等の管理のシミュレーション
・市内の雑木林等を２箇所以上設定すること
・設定した雑木林等に関する地元への説明会を１回以上開催すること
・里山管理の専門家を招聘し、持続的な管理手法（ハハ、ふ法以上）アドバイスを受けること
・持続的な管理で生まれるエネルギー利用を想定した資源量（薪材、材積）を調査すること
・薪割り機を活用した薪生産、各種設備等と提携した流通のコストを調査すること

（６）薪、BDF等供給体制の試行整備
・薪、BDFを供給する拠点を、市内に３箇所以上試行整備すること
・メトック費用、輸送にかかる人件費等のコストを調査すること

（７）その他緑の分権改革につながる地域資源の発掘や人材の育成に関すること
・調査を通じて緑の分権改革につながる地域資源を情報的に発掘すること
・調査を通じて地域資源を活用し地域の活性化に取り組む人材の育成に努めること
・地域資源の発掘や人材育成に関して取りまとめを行い報告すること

報告書

平成２１年度
「東近江市緑の分権改革推進事業」業務
（新プロジェクト編）

報　告　書

平成２３年２月

東近江市企画部緑の分権改革課
ひがしおうみコミュニティビジネス推進協議会

・P.116の報告書

薪プロジェクト（H22～）

●「東近江市緑の分権改革推進事業」（総務省より委託）で実施した雑木林の伐採から薪生産・販売の試行調査から生まれたプロジェクトである。

●その結果を踏まえ、平成23 年度薪の需要量・森林管理の意向調査（市単独）を実施した。

持続可能な雑木林の管理手法

資源量調査

●**雑木林における薪原木の原単位（3地区×3,000m²の平均）**
0.964t/100m²≒1t/100m²

●天然林14,283.22ha（市の37.2%）

●**薪乾燥率70%**

●**伐採適期30年**

●**薪使用量2.5t/世帯/年**

●最大12,850世帯の薪が供給可能（市の30%）

現状コスト（伐採・搬出・運搬）

ボランティア（下刈・除伐・搬出）

障がい者（下刈・除伐）

障がい者（薪割）

障がい者（薪配達）

【仮定】
・雑木林の整備を全てプロが実施する場合、薪を販売しても費用を回収することができない。
・薪ストーブが普及すれば、市内の雑木林の整備が進む。
・雑木林の森林所有者は整備に無関心である。

【結果】
・里山活動のボランティアや障がい者の活躍による「市民協働型」の場合、費用回収が可能であった。
・薪ストーブの普及によって、市内の雑木林は十分整備できる。
・森林所有者は獣害対策をきっかけに雑木林の整備に興味を持つ。

伐採、搬出、運搬の実証調査
•市内の森林施業者である坂東林業と連携してモデル地区3,000㎡の皆伐、薪原木の搬出・運搬の実証調査を行う。
•実証調査の結果より伐採、搬出、運搬のコストを算出する。
•障がい者（ＲＡＳＨＩＫＵ）、ボランティア（里守隊・横山サポーター）と連携可能性（どの作業がどの程度できるか）の実証調査を行う。

薪生産の実証調査
•市内薪生産業者である薪遊庭への聞き取り調査より現状の概要とコストを整理する。
•薪遊庭の指導のもと障がい者による薪生産可能性（どれくらいの価格でどの程度できるか）の実証調査を行う。

薪供給の実証調査
•市内薪販売業者である薪遊庭への聞き取り調査より現状の概要とコストを整理する。
•薪遊庭の指導のもと障がい者による新たな薪供給システムである週１回100kgの定期配達の実証調査を10月から２月の19週間行う。

表 市民協働型 皆伐 100 ㎡当り、薪原木１ｔ、薪 700kg

作業内容			金額（円）	割合（%）	備考
支出	薪原木	現地確認	314	1.0	
		測量	-	0.0	削除
		選木	-	0.0	薪販売者
		下刈・除伐	468	1.5	ボランティアで対応、機械経費のみ
		伐採	4,496	14.4	作業の効率化時間70%
		搬出	11,075	35.4	〃
		運搬	2,284	7.3	片道8km 〃
		測量	-	0.0	
		小計	18,636	59.6	
	薪生産	玉切り	6,118	19.6	
		薪割	1,415	4.5	2名障がい者で対応
		乾燥・保管	333	1.1	
		小計	7,866	25.2	
	配達	積卸	1,300	4.2	1名障がい者で対応
		輸送	3,422	11.0	700kg 片道23.6km 障がい者1名で対応
		小計	4,722	15.2	
	計		31,224	100.0	
収入	販売		35,000		薪原木から販売する薪になるのは7割 1t×70%×50円/kg
差			3,776		

障がい者の時給1,000円、スタッフ1名は福祉関連

Point①
薪プロジェクトは「市民協働」で可能！
雑木林の伐採から搬出、薪の生産、配達まで、地域の多様な主体が協働して実現することで採算ベースに乗る。

Point②
「中間的就労」の場提供可能！
様々な課題を抱え、「働く」ことに恵まれなかった若者に、自信を取り戻すきっかけを提供できる。(一次産業の現場には失敗がないことが自信につながる)

Point③
薪ストーブが増えれば雑木林が更新される！
市内に約500台の薪ストーブが導入されれば、年間17.5ha（皆伐）の雑木林が更新できます。強度の間伐であれば、さらに多くの面積が更新可能です。

	現在（2010年）	将来（2030年） ケース1 薪ストーブ導入動向	ケース2 総世帯の1割（滋賀県）	ケース3 総世帯の2割（市円卓会議）
薪ストーブ導入台数（台）	130台	490台	3,900台	7,800台
薪ストーブにおける薪の需要量（×2.5ｔ/台/年）	325ｔ/年	1,225ｔ/年	9,750ｔ/年	19,500ｔ/年
雑木林要皆伐面積（÷0.7×100m2/ｔ）	4.6ha/年	17.5ha/年	139.3ha/年	278.6ha/年
雑木林の要適正可能面積（×伐採適期30年）	138ha	525ha	4,179ha	8,358ha
市天然林の占める割合	1.0%	3.7%	29.3%	58.5%
皆伐コスト	0.9億円/年	3.3億円/年	25.9億円/年	51.8億円/年

総世帯の１割（滋賀県）：島田幸司立命館大学経済学部教授らの研究会が作成した行程表（ロードマップ）よ
行程表は温室効果ガス排出量の50%削減するため、県の産業や交通、家庭生活などの約140項目の20年
姿を具体策と数値で示したものである。
東近江市総世帯数：38,941世帯（H22年国勢調査）
2.5ｔ/台/年：１年間における薪ストーブ１台当りの薪使用量（H21年度調査）
0.7：薪の乾燥率（H21年度調査）
100m2/ｔ：薪原木１ｔ当りを採取するのに必要な雑木林の面積（H21年度調査）
30年：薪原木としての伐採適期15～30年（H21年度調査）の30年を採用
東近江市天然林面積：14,283ha（H21年度調査）
皆伐コスト：18,636円/100㎡=186万円/ha（H21年度調査・市民協働）
＊（参考）間伐コスト：造林事業事業費（50%間伐）
市原野地区実績：H22：145万円/ha、H23：63万円/ha

【森林・里山の現状と課題】
・森林所有者情報の未整備（－）
・放置林の増加（管理放棄）（－）
・獣害の温床（－）
・ナラ枯れの拡大（－）
・材価の低迷（－）
・集約化の必要性（－）

<プロジェクト効果>
●薪原木として雑木が販売できれば、雑木林の整備が進む。
●獣害対策をきっかけに、集落ごとに森林の管理が集約化できる。
●森林の更新により資源を保全できる。

地域ニーズは森林整備より獣害対策

一次産業の現場は中間的就労にピッタリ！

【薪生産・販売の現状と課題】
・薪原木供給が不安定（－）
・薪割機械の導入が必要（－）
・雇用（事業）が不安定（－）
・生活困窮者の中間的就労の場提供（＋）
・ボランティアや自治会との協働（＋）
・場所の確保困難（－）

<プロジェクト効果>
●生活困窮者の就労につながる。
●ソーシャルビジネスとして地域活性化。

協働型の薪割事業はビジネスモデルの可能性あり

【薪ストーブの活用の現状と課題】
・再生可能エネルギーへの関心高（＋）
・初期コスト高（－）
・普及啓発が不十分（－）
・薪をストックする場所がない（－）
・薪を調達する方法がわからない（－）
・人にやさしい暖房（＋）
・手間がかかるという印象（－）

<プロジェクト効果>
●再生可能エネルギーである木質バイオマスの利用が進む。
●火のある暮らしによって、家族団らんのきっかけづくり。
●地域の森林や農業への理解が進む。

温暖化対策＋絆の再生＋エネルギー自立

地域資源の活用による地域力の向上

【薪ストーブ製造の現状と課題】
・製造する地元企業が複数あり（＋）
　薪遊庭、鍛鉄工房室：Rish（りっしゅ）
　薪のある暮らし方研究会：Mark5
・針葉樹・広葉樹の燃焼可能（＋）
・導入実績が少ない（－）
・PR不足（－）
・大量生産できない（－）

<プロジェクト効果>
●薪ストーブユーザーが増えることは、地域経済の活性化につながる。
●異業種の協働による商品開発が定着する。
●地域課題と地域の経済活動がつながる。

第1回目の打合せが重要

薪プロジェクト編

1）持続可能なバイオマス供給源としての雑木林等の管理のシミュレーション
・市内の雑木林等を１カ所以上設定すること。
・設定した雑木林等に関わる地元への説明会を１回以上開催すること。
・里山管理の専門家を招へいし、持続可能な管理手法について２回以上アドバイスを受けること。
・持続可能な管理で生まれるエネルギー利用を想定した資源量を調査すること。
・薪割り機を活用した薪生産、各種団体等と連携した流通コストを調査すること

2）薪供給体制の試行整備
・薪を供給する拠点を、市内に１カ所以上試行整備すること。
・ストック費用、販売に係る人件費等のコストを調査すること。

確認事項

- 仕様書の疑問点
- アウトプットイメージ
- インプット情報の確認
- 仕様書の内容確認
- 報告書の構成
- 今後の予定　　　　など

業務実施計画書を作成しよう

- 業務の概要（業務名、場所、期間、目的、発注者、受注者）
- 業務内容・実施方針
- 貸与資料
- 仕様する図書・基準
- 業務組織計画
- 成果品の内容、部数
- 業務工程

目標書を作成しよう

- 予算は人件費＋直接経費＋間接経費
- 作業項目を想定
- かかる員数を想定しよう
- 直接経費の項目想定
- 連携団体に見積をとろう　仕様　予算

重要段階で打合せをしよう

- 次第・資料は事前に配布
- 確認事項も整理

結構打合せの最後が重要

- 今日決まったことの再確認
- 次回打合せ日を決める
- 次回までの実施すること決める

打合せ協議簿を作成しよう

- 日時・場所
- 参加者
- 小項目をつける
- 箇条書き
- できるだけ早く作成して出席者に確認を求めよう
- 協議確認事項で代替も可能

報告書を作成しよう

- 目次構成が重要
- 見出しから書こう
- 第1章は調査概要を書こう
- 目的→手順→結果→考察
- 表・図・写真を使おう
- 表・図・写真の番号タイトルをつけよう
- 引用文献名を記述しよう
- 参考資料も整理して添付しよう
- 今後の提案も書こう
- まとめて書かず、徐々に書いていこう

概要版を作成しよう

- 報告書の概要版を作成しよう
- 概要版は写真、図、表でビジュアルに
- これが今後、最も使われる。

次年度の提案書を作成しよう

業務遂行に必要な能力

①話す（打合せ、説明会など）
②調べる（現地踏査、文献調査など）
③聞きだす（ヒアリング調査）
④組織化する（推進体制）
⑤提案する（アイデア）
⑥書く（文章）
⑦見せる（図、表、ちらし）
⑧まとめる（報告書）
⑨お金（予算、資金調達）
⑩こなす（スピード、臨機応変）
⑪段取りをする